

3. 2017 年度活動概要

Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会は第 9 回を迎える 2017 年度に代表の交代という大きな節目を迎えたが、研究活動の中心である OPP 発表イベントはその特徴としてコーディネーター教員がそれぞれの役割を分担しながらも学生を交えた参加の仕方が正しく「十全参加」会を実現していることからスムーズに運営を執行することができた。2017 年 12 月 17 日（日）、今回初めて県立広島大学広島キャンパス大講義室を会場として開催され、6 大学 7 グループの参加を得、学生発表者総数が 61 名、指導教員数 10 名、さらに一般の来場者も含め、80 名を超えるイベントとなった。このようなイベントを成功させるためのノウハウの模索、蓄積も我々の任務なので、毎年様々な試行を試みているが、今回は学生の英語学習振り返りのための映像／音声記録の効果的な収録のための装置に工夫を加え、Blu-ray 化を実現した。

2016 年は科研の最終年ということで海外での発表も実現し一定の成果を表し始めている。2017 年度は「グラウンデッド・セオリー・アプローチ」による OPP 参加者のインタビュー調査をもとに分析検討を行った結果を JACET 年次国際大会（2017/8/29～8/31）でポスターセッションにて披露した。現在この成果を論文化に向けて深化させている過程にある。2018 年にもう一度学会における発表を経て論文化できるのではないかとの見通しである。

昨年度に構想された学術研究書の出版計画は順調にステップを踏んでいる。8 月に開催された研究会にて進捗状況を確認した。実践編はかなり原稿が出揃っている状況で、今後フォーマットを統一し、かつジャンル別に分類したりする予定である。